

熊本県・平山温泉

ほたるのながや

ほたるの長屋

Hotaru no Nagaya

〒861-0556 熊本県山鹿市平山5206-7
TEL:0968-48-1222



1日5組限定のプライベート空間
すべて離れの温泉風呂付き客室

■宿データ

- 1泊2食料金 ¥20,900～(税別)
- 1泊朝食料金 設定なし
- 素泊り 設定なし 一人泊 設定なし
- 宿泊時の貸切風呂料金 無料
- 日帰り ¥2,000～(税込)
- 日帰り(食事付き) ¥7,100～(税別)

■温泉成分表

湯の色 無色透明～エメラルドグリーン 湯の香り 硫黄臭

溶存物質(ガス性のものを②+③の合計) 224mg/kg

泉温 45.1℃ pH値 9.79(アルカリ性)

湧出量 引き湯 この宿の使用量 約40リットル/分

一人あたりの温泉利用量(湧出量/収容人数) 約2.2リットル/人 ※最大収容人数18人

温泉の成分(源泉1kg中に含有する分量)

※源泉かけ流し(消毒なし)で、大人が清潔な状態で温泉に入浴するために必要な湯量は一人当たり0.545リットル/分以上(甘露寺泰雄氏著「温泉資源の活用と保全策」より引用)

陽イオン	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%	陰イオン	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
ナトリウムイオン(Na ⁺)	80.1	3.48	98.40	水酸化物イオン(OH ⁻)	1.4	0.08	2.35
カリウムイオン(K ⁺)	0.4	0.01	0.30	フッ化物イオン(F ⁻)	8.5	0.45	13.24
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	1.2	0.06	1.67	塩化物イオン(Cl ⁻)	40.6	1.15	33.88
				硫化水素イオン(HS ⁻)	5.0	0.15	4.44
				チオ硫酸イオン(S ₂ O ₃ ²⁻)	0.2	0.00	0.09
				硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	4.0	0.08	2.48
				炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	21.1	0.70	20.84
				メタケイ酸水素イオン(HSiO ₃ ⁻)	59.1	0.77	22.69
計①	81.70	3.55	100.00	計②	139.9	3.38	100.0

非解離成分	ミリグラム	ミリモル	溶存ガス成分	ミリグラム	ミリモル
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	0.1 未満	0.01 未満	遊離二酸化炭素(CO ₂)	0.1 未満	0.1 未満
メタホウ酸(HBO ₂)	2.7	0.06	遊離硫化水素(H ₂ S)	0.1 未満	0.1 未満
計③	2.7	0.06	計④	0.00	0.00

溶存物質総計(ガス成分を除く①+②+③の合計) 224mg

成分総計(①+②+③+④の合計) 224mg

その他微量成分

総ヒ素0.00mg/kg 総水銀・鉛イオン・銅イオン検出せず

※適応症・禁忌症に関して、平成26年7月改正の「鉱泉分析法指針」に準拠しています。宿よりデータを提供して頂きました。

この泉質ならではの浴用の適応症(平成26年7月1日改定)

アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、慢性湿疹、表皮化膿症、自律神経不安定症、不眠症、うつ状態

浴用の一般的適応症(平成26年7月1日改定)

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷感性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進

この泉質ならではの浴用の禁忌症(平成26年7月1日改定)

皮膚、粘膜の過敏な人、特に光線過敏症の人、高齢者の皮膚乾燥症

浴用の一般的禁忌症(平成26年7月改定)

病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

飲用の適応症

不可 ※保健所に飲用申請を不提出

分析日

平成22年11月26日(株)同仁グローバル

温泉の言い伝え/その他

伝承による効能 疥癬(かいせん)、汗疹(あせも)

この湯に浸かった歴史上の人物 肥後藩初代藩主・加藤清正(1562～1611年)、日本マラソンの父・金栗四三(1891～1983年)

■水素イオン濃度(pHペーパー)



肌の感触 ←ピリピリ

9.79(アルカリ性) トロトロ →

一言コメント アルカリ性と硫黄成分による美肌効果が期待できる。

泉質名: 単純硫黄温泉

(低張性 アルカリ性 高温泉)(旧泉質名: 単純硫黄泉)

源泉率: 100%

湯の入替: 1日1回

源泉の湧出状況: 近隣の源泉保有者から動力揚湯(ボーリング掘削)による温泉を引湯

引湯方法: パイプによる引湯

源泉から湯舟までの距離: 約300m

温度の調整方法: ボイラーで加温

飲泉: 不可 ※保健所に飲用申請を不提出

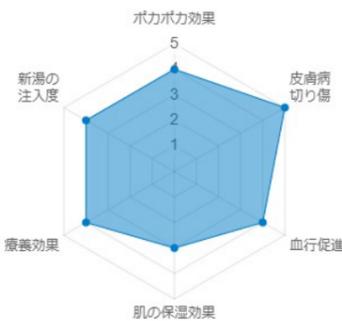
源泉かけ流し風呂: 客室露天風呂 ×2 温泉内風呂 ×5

■源泉の利用状況

加水なし	加温なし	消毒なし	循環なし	入浴剤なし
○	×	○	△	○

※入浴に適した温度に保つため、加温した源泉をかけ流しにしている。
※冬期、及び気温が下がった時に、湯舟内の温泉を循環して加温する場合がある。

■温泉力チャート(5段階評価)



◆こんな人に最適

- 皮膚病全般にお悩みの方
- オイリースキンの方
- 皮膚表面のトラブル(ニキビなど)にお悩みの方
- 美白になりたい方
- 美肌になりたい方

■美肌の湯 4要素

該当数 2

※硫黄泉であること、pH9.79とアルカリ性であること(基準値pH7.5以上)から該当数2

肌の美白効果	肌のなめらか効果	肌の蘇生効果	肌のつるすべ効果
硫黄泉	炭酸水素塩泉	硫酸塩泉	(弱)アルカリ性

◆温泉レポート(文・温泉ソムリエ倶楽部 事務局長 大竹央将)

「ほたるの長屋」は、一般的な温泉宿にある「男女別の大浴場」がない。その代わりに各部屋に温泉風呂が備わる。それは、プライベート空間を重視するこの宿のコンセプトも関係するが、ズバリ「源泉かけ流し」にこだわっているからだ。「ほたるの長屋」は、近隣の源泉所有者から引き湯をしている。その源泉量は、1分あたり約40リットルとの事。施設としての最大収容人数は18人であるため、単純計算で1人あたり約2.22リットル/分の源泉を使用することができる。源泉かけ流しの場合(塩素などによる消毒を一切行わない場合)、清潔な状態で湯浴みを楽しむ続けるためには、目安として1人あたり0.545リットル/分の源泉が必要。この宿は、この基準値の4倍以上の源泉量で、充分過ぎるほど贅沢に源泉をかけ流しにできるようにしているわけだ。なお、他の研究機関では、少し余裕をもって「1人あたり1リットル/分が必要」としている。どちらにせよ基準値を大きく上回っていると言えるだろう。ただ、平山温泉の源泉温度が45.1℃と低いため、この宿ではボイラーで加温している。源泉の温度の低さを熱湯(水道水を沸かしたもの)を注ぎ入れることでカバーする施設があるが、これではせっかくの源泉が薄まってしまい、温泉のパワーが発揮できなくなってしまう。しかし源泉をタンクに貯めて、ボイラーで加温する場合、温泉に含まれる硫黄成分による金属腐食により、毎年ボイラーが一台、また一台と壊れてしまうそう。だが、「ほたるの長屋」のオーナー・福田朋子さんは「平山温泉の極上の源泉を堪能してほしい」との想いからあえてコストをかけているそうだ。

「ほたるの長屋」の泉質名は「単純硫黄温泉」。無色透明のお湯からは硫黄の香りが漂う。pH9.79というアルカリ性の温泉はトロトロの感触となる。人間の肌は弱酸性であるため、アルカリ性の温泉に触れることで皮膚表面が反応し、湯上がりには肌表面の古い角質が取れ、ツルツルとした肌触りを生み出し美肌になる。アルカリ性であることは温泉が「美肌の湯」であることの条件の1つだ。

源泉1kg中に含まれる硫黄成分が2mg以上だと硫黄泉とされる。その硫黄泉には「硫黄型」と「硫化水素型」の2つのタイプが存在する。「硫黄泉」は、①硫化水素イオン②チオ硫酸イオン③遊離硫化水素の硫黄成分(総硫黄)が溶け込んでいるのだが、①+②>③の場合「硫黄型」、①+②<③の場合「硫化水素型」となる。

別の表現をすると、硫化水素イオンが主体が「硫黄型」、遊離硫化水素が主体が「硫化水素型」。

さらに言えば、温泉に溶け込んでいる硫黄成分が多いのが「硫黄型」。「ほたるの長屋」の温泉には①硫化水素イオンが5.0mg/kg含まれており、これが硫黄成分の大部分を占めるため、「硫黄型の硫黄泉」ということになる。その特徴として、湯の色がエメラルドグリーンに見えることがある。気を付けなければならないのは、指輪やネックレスの金属類。硫黄成分による変色があるので、入浴の際は、必ず外すことを覚えてほしい。

硫黄泉は殺菌効果が高いので肌表面のトラブル全般に効く「皮膚病の湯」とされている。戦国武将・加藤清正も汗疹(あせも)を平山温泉に浸かり癒していたという記録もあるそう。さらに硫黄泉はシミ予防、すなわち美白効果があるとされている。シミの原因物質であるメラニンは、チロシンというアミノ酸の一種が酸化することで生成されてしまうのだが、硫黄泉は還元作用を持つためメラニンの生成を抑えることができるのだ。要するに硫黄泉は「美肌の湯」なのである。

この宿の泉質名は「単純硫黄温泉」だが、「単純」と名前が付くのは、源泉1kg中の溶存物質が1,000mg以下だから。「単純〇〇温泉」は、一般的に刺激が少ない「優しい温泉」とされるが、硫黄成分は人によっては刺激が強く作用することがある。皮膚や粘膜が弱い人は、湯あたりや皮膚炎を起こしやすいので、湯に慣れるまでは入浴回数も1日3回程度が好ましいだろう。(加筆・修正～大竹仁一)